

令和7年度 学校評価報告書

学校名	三田市立藍中学校
-----	----------

1 学校教育目標

「夢や希望を実現する 心豊かにたくましく 共に生きる生徒」の育成
 ～ウェルビーイングを実現する学校を目指す～

① 信頼される魅力ある学校づくり
 ② 学校の組織力向上、教職員の資質・指導力向上
 ③ 小中一貫した教育

2 今年度の学校重点目標

- (1) 気持ちのよい挨拶があふれ、規律ある学習指導が実践できる学校づくりを推進する。
- (2) 教職員自らが人権感覚を一層高め、命や人権を大切にされた教育実践を進める。
- (3) 小中の連携により、家庭学習を含む基本的な学習習慣の定着に努め、生徒の学力向上を図る。
- (4) 特別支援教育を根幹に据え、一人一人が大切にされる学校づくりを推進する。
- (5) ICTを活用した授業を推進する。(デジタル教科書、学習ポータルサイト等の活用)
- (6) 生徒とともに美しく過ごしやすい学習環境づくりを推進し、生徒の情操を高める。
- (7) 楽しさや喜びを実感する体育・芸術文化活動等を充実させる。
- (8) 学校における危機管理意識を高め、全職員が地域の信頼に応える学校づくりに努める。
- (9) 学校園所連携を積極的に進め、地域の課題に協力体制で取り組む。
- (10) 勤務時間の適正化並びにハラスメントのない学校づくりを推進し、風通しの良い誰もが働きやすい職場環境をめざす。

3 総合的な自己評価

学校教育目標や中学校区で定めためざす子ども像を意識した学校としての取組を進めてきた。教職員の生徒理解及び全教科で実施した授業アンケートに基づく授業改善を行うことで分かりやすい授業につながったこと、生徒や保護者の願いを受け、学課題解決に向け丁寧に学校全体で取り組んできたこと…QU アンケートや心の天気アンケートを行い生徒理解を深め思いに寄り添い教育相談を充実させたことにより、組織的で迅速で適切対応ができた。また、そこに生徒の学力向上や集団生活への意識の高まりもあり、学校・生徒・家庭が連携・協力しあえ、教職員への信頼が高まり学校が生徒にとって安心して過ごせる場所となりえたことがアンケート結果から読み取れる。学校教育を充実させるためには、今後も家庭、地域と連携した取組が不可欠であることから、これまで以上に情報発信を工夫し、家庭や地域の理解と協力を得、学校も一層努力し学校教育目標の実現を図りたい。次年度は部活動の地域展開も完了することから、より一層個別最適な学びや協働学習について研究をすすめるとともに、増加する不登校対策に注力する。

4 総合的な学校関係者評価

学校行事等で生き生きと活動する生徒の様子がうかがえる。また、気持ちの良い挨拶を来校者にも地域でもしている姿や学校評価の結果をみると、多くの生徒たちは充実した学校生活を送っている様子も見える。研修や学力向上等に取り組んでいる教職員の姿もうかがえるが、今後はより一層子ども一人一人の思いや困りごとに寄り添った学習指導や生活指導、また学校づくりに心がけていただきたい。特に授業でのつまづきに対応できるよう、小学校からの学びを大切によく連携して取り組んでほしいし、次年度の学校が取り組もうとしている授業中の支援にも期待している。生徒たちが楽しく充実した学校生活を送ることができるよう授業の工夫・学習支援・学校行事の充実・生徒会活動の活発化など、学校に自ら登校したくなるような環境づくりに今後も努力してほしい。

5 評価結果

自己評価				学校関係者評価
分野・領域	評価項目(取組内容)	評価結果及び分析	改善の方策	学校関係者評価委員会の意見
教育課程・学習指導	小中連携の充実を図り、家庭学習に関わる共通実践を進めるとともに、教育研修を進め、教員の資質・授業力向上。	<p>学校園所連携及び小中学校の三校研を整理し直し</p> <p>2年目となり、より緊密な小中連携が可能となっている。</p> <p>家庭学習の手引きの作成及見直しを経て、家庭学習習慣の定着は改善の兆しがあるものの肯定的回答は65.5%に留まった。</p> <p>互見授業での意見交換や提案、年2回全校生・全教科を対象に授業アンケートを行い、その結果を受け授業改善を行い、学力向上に努めた。その結果授業が分かりや</p>	<p>小中学校の連携をさらに進めること。</p> <p>・学習学力状況調査の国語・数学の合同分析結果を踏まえ、身に付けさせたい力を把握し小中各校で学力向上のため一貫したカリキュラム作りを推進する。</p> <p>・「家庭学習の手引き」を見直し、小中一斉に配布し家庭学習についての理解(方法や必要性)を深めさせるとともに課題の提示などに工夫を行う。</p> <p>授業に関する2回目のアンケートをもとに各教科で次年度の授業改善計画を年度内に準備しておく。</p>	<p>小中の連携を上手にとり、生徒が集中して学習に向かう姿勢・習慣を小さなころから養ってほしい。生徒個々の困り感を把握し支援・アドバイスすることも大切にしながら、学校に通いたくなる魅力ある授業づくりに一層励んでいただきたい。生徒同士が協働し教えあえ学びあえる授業の組み立てにも力をいれていただきたい。</p>

		すいは 95.6%,学力向上の取り組みには92.1%が肯定的な回答となっている。		
	「朝の学習タイム」「ひょうごがんばりタイム」と連携し、基礎学力の定着と家庭での学習習慣の定着に努める。	ミライシードの活用により、自分のペースで個別最適化された朝学習を進めることができた。 今年度配置の児童生徒支援教員の授業中の支援や放課後のがんばりタイムでは学習に困り感を抱える生徒の学力補充や心のケアに努めることができた。	様々な課題に対応できる力を身につけるために必要な基礎的な力・読解力の修得のために読書習慣・学習習慣を身につけさせたいと願い、1年生最初に朝学習として朝読書期間を設けることと、朝学習や学習支援を継続する。小中一貫教育の推進により、中学校卒業までに必要な基礎学力の定着を目標に掲げ、学習指導・家庭学習習慣の定着に努める。またがんばりタイム指導員や教員をできる限り授業支援に配置し、細やかな支援を行い授業が分かる生徒を増やしていきたい。	個々の困り感の把握に努め、授業中の支援・生徒同士の学び合いができるよう授業の工夫をお願いする。また、授業における支援を引き続き行っていただきたい。卒業後に次の進路先で生徒が困らないよう、十分に力をつけてやってほしい。 環境の要因で家庭学習に十分取り組めない場合もあるが、課題の出し方の工夫に努力し、自主的に課題に取り組む姿勢を身につけさせたい。また、得意な分野を見つけ意欲的に学習に取り組むことができるよう支援をお願いする。
生徒指導 いじめ防止	本校「いじめ防止対策基本方針」の見直しに基づき、いじめ問題に対して、迅速かつ組織的に対応する。	生徒の見守りや定期的なアンケート・教育相談などをもとに課題を発見し、組織的に迅速で丁寧な対応を行ってきた。また間違ったことがあれば指摘したり、細やかな目配りや声掛けにより、生徒が安心して学校生活が送れる環境づくりを行ってきた。いじめ対応チームについても生徒に周知し、各課題についてチームで十分に検討し対応してきた。生徒の 94.7%、保護者の 86.6%がいじめ防止の取り組みがなされ安心して生活できるとしている。	教育相談やいじめアンケート、教職員や保護者の気づきをもとに、課題の早期発見に努め、早期対応・解消ができるよう個で判断せず報・連・相・確を徹底し、引き続き組織(学校いじめ対応チーム)で課題に取り組む。SC や SSW、外部機関との連携を大切に、日頃からの生徒理解に努めいじめ防止に努める。いじめ防止基本方針の見直しを計画的に行う。	教育相談やアンケート等で十分に生徒や保護者の思いを聞き、丁寧に対応いただいている。何気ない日々の声掛けを大事にし、心がつながっている・気にかけてもらっていると生徒が感じられるよう温かな学校・学級づくりを今後も期待している。
	教育相談の充実を図り、生徒の思いや願いをくみ取りながら生徒の共感的理解に基づいた生徒指導・教育相談に取り組む。 不登校生徒対応。(不登校支援プラン)	丁寧で真摯な生徒や保護者への対応や家庭との連携を通して、教師と生徒及び家庭の信頼関が増していることがアンケートからうかがえる。教職員の指導や連絡に対する肯定的な評価は生徒からは9割を超える。 一方で不登校性が増加傾向にあり未然防止のための恒常的な対策が必要となっている。今年度は学力保障	教育相談や定期的な面談、生徒や外部からの相談、生活アンケートや日々の連絡帳や言動などから気になることを発見したらすぐに報告・共有し対策を立て面談を行うなど、生徒の思いに寄り添う体制を構築する。担任だけでなくどの教員でも相談できるよう研修を重ね学校全体で関わる体制づくりを行っていく。 学校に登校しにくい生徒には、教室へ戻る一歩としてサポートルーム利用をすすめるなど登校を促す。本人保	今後も生徒理解に基づいた生徒指導・支援に取り組んでいただきたい。学校に登校しにくい生徒には、先生方の日々の声掛けが大切であり、学校行事等への参加を丁寧に促すことも、学校・学級復帰のきっかけとなると考える。丁寧な対応に先生方への信頼も高まっているようだが、引き続き温かな対応をお願いしたい。

		及び教室復帰の足掛かりの一環としてタブレットによる授業視聴を一部行った。	護者との面談、本人・保護者と SC との面談や、生徒とこどもサポーターなどのかかわりを通して生徒の理解に努め、対応策を考え実践していく。	
組織運営	「学びあい、高めあえる」環境づくり。 生徒指導をはじめ生徒対応などに組織的に取り組む。	生徒理解を深めるため研修研究に努め、様々な課題への対応力・生徒・保護者支援力を高めるなど教職員自身の資質向上を図ってきた。また、報告、連絡、相談の徹底による情報共有と丁寧で迅速な対応を組織的に行ってきた。互いの指導方法についても意見交換を行い意識を高め、補い合いながら対応力を高めてきた。	年度当初に生徒指導方針・体制の説明を行い、職員の意思統一を行う。定期的に研修を行い指導力を高め、生徒一人ひとりを大切に、温かな学級・学年・学校・部活動等の環境づくりに努める。教職員間の連携を密に、何でも言い合える関係を教師間で築く。課題を発見した場合は、個人で判断し対応するのではなく即時チームや学年に相談し対応する。保護者と緊密かつ丁寧に連携するなど信頼関係の構築にも努力する。	教職員で意思統一を図り、学校全体で生徒へ対応し、課題に取り組む現在の姿勢を続けていきたい。生徒との心のつながりを大切にして物事を進めてほしい。そのためにも委員会活動などで生徒自らが工夫・充実を図り、楽しい学校生活がおくれるような工夫に取り組んでいただきたい。
	特別支援教育の視点を生かした、すべての生徒に分かりやすい学習指導の工夫、授業改善に取り組む。	授業アンケートに基づき教員は授業を見直し、よりわかりやすい授業を展開しようと努力してきた。その結果、「授業が分かりやすいように、教え方を工夫している」の生徒の肯定的評価が95.6%と少しではあるが上昇したが、保護者の意見は昨年より減少し77%あまりとなった。	授業や生活の中で支援が必要な生徒について、生徒支援委員会での確認を経て全教職員が共通理解し、合理的配慮や基礎的環境づくりに努める。小学校の学習の復習にも丁寧に取り組みすべての生徒に分かりやすくかみ砕いた説明を行うなどさらに授業改善を行うとともに、学校の取り組みへの理解を促すためにも、授業公開などで学校を開く回数を増やすか学習の様子などの発信を増やす。	取り組みは丁寧にしている。 生徒一人一人の状況を把握し、配慮し授業を行うなど今後も務めていきたい。授業の進め方で、聞く時と書く時を明確に分け、授業に追いつけない生徒をなくすなど配慮していただけるとよりよいのではないかと考える。
保護者、地域住民等との連携	人権意識、危機管理意識の向上と、様々な教育課題への組織的な対応により家庭、地域に信頼される学校づくりに取り組む。	学校生活全般・授業全般を通して生徒一人ひとりが大切にされ、おかしきことはおかしきと言える学級・学校・職員室づくりを、また防災意識を高めるために2年生では防災教育の指定を受け一年間取り組んで来た。課題があれば学校はチームとして取り組み、家庭や関係機関と連携して解決に努めてきた。その結果、学校の活動や教職員の対応に関する項目は生徒ではほぼ9割以上が、保護者では多くの項目で8割以上が肯定的な回答となっている。	その場面に応じた研修を行い教職員の人権意識や危機管理意識の向上を目指す。教職員全体の連携を密にし、報告・連絡・相談・確認を確実に、学校全体でチームとして組織的に対応し、教員と生徒、学校と家庭や地域との信頼関係を築くよう取り組む。	教職員研修は必要なものを適切に行っている。地域に信頼される学校づくりは人づくりから。今後も丁寧な対応をお願いしたい。

	<p>コミュニティスクールの活用。地域の組織との連携。生徒会を中心に地域で活躍できる生徒の育成。</p>	<p>可能な範囲で地域のお祭りへの生徒会や吹奏楽部の参加を行った。地域の社会福祉協議会の高齢者理解のための講習を受け地域の中で中学生ができることを考えた。地域ボランティア講師による和 문화体験開催など地域の方と触れ合う機会を大切にした。</p>	<p>生徒がそれぞれ部活動(次年度8月以降は学校を離れ地域で活動)や習い事が増え、平日夕方や休日も忙しく過ごしている。地域行事で参加できることを見つけていくことから始めている。生徒会、吹奏楽部の地域行事への参加を通しての交流や小学校のPTA 行事への参加、三田市内の方を講師として招いた授業などを今年行ったが、次年度もできる限り同様の活動を行う。</p>	<p>できる範囲で地域のお祭り等への参加など生徒会や吹奏楽部が取り組んでくれている。今後も生徒自身が地域で生きていく中で、できることや担う役割について考えさせていきたい。</p>
--	--	--	---	---

6 学校自己評価の実施状況について

時 期	内 容
4月	学校評価についての共通理解
12月	中間評価について意見交流
12月～1月	自己評価及び生徒・保護者アンケートの実施・分析
3月	総括と改善策についての協議検討

7 学校関係者評価委員会の活動について

時 期	内 容
6月	学校評価についての説明および今年度の取り組みについて
6月	1学期の教育活動についての意見交流
8月	2学期の教育活動についての意見交流
3月	アンケート結果及び自己評価についての意見交流

※学校自己評価…外部(児童生徒・保護者・地域等)アンケートの実施を含む

8 学校評価の公表について

時 期	手 段	内 容	添付
3月	学校 HP	自己評価及び学校関係者評価の概要について公表	
3月	学校だより	令和7年度学校評価報告の公表	

※ 公表の具体がわかる印刷物等がある場合には添付願います